

令和元年度 神奈川県立大師高等学校 不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 項目・目標別実施結果

| 項目 | 目標 | 実施結果と目標の達成状況 |
|------------------------------------|---|---|
| ① 校務外非行防止に繋がる法令遵守意識の向上 | 公務員としての自覚を持ち、心に隙を作らない意識の徹底を図る。 | 啓発資料を適宜活用するとともに、新聞等で事案が報告された場合は、その記事等を職員室内に掲示し、始業時打合せや職員会議で取上げ、注意喚起を行った。経験の浅い教員が多い中、公務員としてのモラルに対する知識・理解と行動に大きな課題はない。 |
| ② 体罰、不適切な指導の防止 | 生徒一人ひとりの特性や置かれた状況を的確に判断し、生徒の立場を理解した指導・支援を行う。 | 他者理解やコミュニケーション力の向上に係る外部講師による研修を実施した。生徒支援や指導に年次団を中心として組織的に取組むことで、教員一人ひとりを孤立させない体制が強化された。 |
| ③ 入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱に係る事故防止 | 慣れによる事故防止を徹底するため、マニュアル・手順書等の確認を怠らない。 | 合格発表時に書類誤配付事案が発生してしまった。マニュアルに定められた一つひとつの手順を段階的に踏まなかったことに起因すると考えられる。マニュアル・手順書をより整備し、重要ポイント等が一目で確認でき作業の全体像を把握できるフローチャート等を作成していく必要がある。 |
| ④ 個人情報等の管理、情報セキュリティ対策 | 文書管理や情報収集に係るルールを徹底し、不適切な取扱いや流失等の事故の未然防止を徹底する。 | 各自に貸与されたパソコンの管理を徹底させるとともに、USBメモリ等の記憶媒体使用を原則禁止とし、電子情報の受渡や機材間での移動に係るルールの徹底を図った。文書管理については、キャビネット等の保管庫を整理し、無駄を省いた効率的な管理が行えるよう改善を図った。 |
| ⑤ 効果的なチェック体制に基づく業務執行体制の確保 | 会議・打合せ等の効率化を図り、職員のモチベーションを維持しながら、組織としての業務遂行に自覚をもって取り組む。 | 各自が担当する業務一つひとつに対ししっかりとしたバックアップ体制を関連部署内で確立や、担当する業務が他の業務とどのように関わっているかを常に意識し連絡・調整を怠らない業務体制の確立に向けた助言・指導に企画会議が中心となって取組んだ。 |
| ⑥ 会計事務等の適正執行 | 適切な私費徴収・執行事務を徹底する。 | なぜ一つひとつの会計処理ルールが取決められているかを担当者間で相互に確認しあいながら迅速かつ適切な処理を行った。また、教材費の徴収、転退学者への返金等の処理が効率的に行えるよう会計処理システムの改善を行った。 |

| | | |
|--------------------------------------|---|---|
| <p>⑦ わいせつ・セクハラ行為の防止</p> | <p>常に相手との関係性を念頭に置き、自覚を持った言動を取るとともに、あらゆるわいせつ・セクハラ行為を許さない、見逃さない学校環境を整備する。</p> | <p>わいせつ・セクハラ行為の未然防止を図るため、プライベートな場での立ち居振舞、言動等も含めて、機会に応じた情報提供や自己チェックを行った。</p> |
| <p>⑧ 交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守</p> | <p>交通法規の遵守の徹底を図る。</p> | <p>事例の紹介・啓発ポスターの掲示などによる法令遵守の啓発を行い、特に、自家用自動車等による通勤や公務での自家用自動車使用を許可された教員に対し、余裕を持った行動が事故防止に繋がる点を機会に応じて職員相互の声掛け等により意識させた。</p> |

○ 令和元年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和2年度に取り組むべき課題

入学者選抜業務での誤配付案件をみても、慌てずに決められたことを決められたとおりに行うことが何よりも一番であることを改めて認識した。そのために、一枚の紙に必要な最低限の情報と手順が一目瞭然に示されるようなマニュアル等の作成、その業務を行うにあたり絶対に必要なもの、後からでも大丈夫なもの等の仕分け・選別、様々な事態を想定した事前シミュレーションの実施等、整備・改善する点を丁寧に探りながら、事故・不祥事の未然防止に向けた取組を強化していきたい。

経験の浅い教員が多くを占める中、多くの教員が高いモラル意識を持ち、持ち前のバイタリテイを發揮し日々の業務に当たっている。一人ひとりの教員が孤立しない、悩まない、高ぶらない等の自己抑制力を高めていくこと、またそれを高めるための助言・指導を丁寧に行っていきたい。

さらに、若手、ベテランを問わず相互に人材育成に取り組む機会を、授業、課外活動、校務等の場において意識して設定していくことが、事故・不祥事の未然防止に向けた地道な取組として不可欠であり、これに学校を上げて取り組んでいきたい。